

Unix / Linux版OpenLM Brokerのインストール

本書ではLinux/Unixベースのシステム（systemdや代わりにinitシステムを使用する様々なディストリビューションタイプ）でOpenLM Brokerをインストールかアップグレードする方法を説明いたします。このガイドではUbuntu 18.04 LTS で説明されていますが、他のディストリビューションでも適用可能です。

目次:

1. システム要件
2. Brokerのインストール
 - 2.1 事前準備
 - 2.2 サービスとしてBrokerをインストール
 - 2.3 バックグラウンドプロセスとしてBrokerを実行
3. 既存Brokerのアップグレード
4. Broker.sh コマンド
5. detect.sh でBrokerの設定

事例

- 5.1 detect.sh でOpenLMクラウド設定をインポートする
- 5.2 代用設定

1. システム要件

JDKのインストールがそのマシンにされてなければなりません。正しいバージョンについては[システム要件](#)のページを参照してください。

2. Brokerのインストール



Linuxのディストリビューションによって、Brokerのインストールは2種類あります。

- systemdを使用するシステムでは、セクション2.2を参照してください。
- systemdがないシステムでは、セクション2.3を参照してください。

2.1 事前準備

1. OpenLMのダウンロードページから最新のBroker (Unix/Linux版) をダウンロードしてください。
2. アーカイブ (OpenLM_Broker_#.#.#.tar.gz)をご都合の場所に解凍してください。
3. お好みのエディターで**settings.sh**ファイルを開いてください。このファイルはBrokerの実行に必要な全ての変数を保持します。**JAVA_HOME**変数を修正するのは必須です。JDK 11のインストールパスを指定します。

JAVA_HOMEパスは「 / 」で終わらないようにしてください。

お好みで、“root”アカウントと違うアカウントでサービスを立ち上げたい場合は**BROKERSRVNAMEUSER**変数を編集する事もできます。この場合、“OpenLM_Broker_X.X.X”フォルダーにある全てのファイルの所有権が新しいユーザーに再度割り当ててください。

並行でBrokerのインスタンスを複数インストールしたい場合は**BROKERSRVNAME**変数を変更する事ができます。

サンプルファイル:

```
#!/usr/bin/env bash

# 並行で複数のBrokerサービスをインストールするにはこ

BROKERSRVNAMEUSER="JohnDoe"

BROKERSRVNAME="openlm_broker_${BROKERSRVNAMEUS

BROKERSRVNAMEFILE="${BROKERSRVNAME}.service"
```



```
# JAVA_HOME変数をインストールフォルダーを指す
```

```
[[ -z "$JAVA_HOME" ]] && JAVA_HOME=/usr/lib/
```

4. ファイルを保存し、以下のインストールのステップをLinuxディストリビューションに従って続けてください。

2.2 サービスとしてBrokerをインストール

Linuxがsystemdをサポートする場合、次のステップによって、システムのスタートアップで自動的に開始するサービスとしてBrokerをインストールできます:

1. サービスとしてBrokerをインストール:

```
sudo ./broker.sh install
```

2. Brokerサービスのステータスをテスト:

```
sudo ./broker.sh status
```

3. 本書のセクション4（Configuring detect.shでBrokerを設定）で説明されている通りBrokerの検知スクリプトを実行してください。代わりに、Linuxにデスクトップユーザーインターフェイスがある場合は、次のコマンドでGUIのBroker設定ツールを実行できます。:

```
sudo ./broker.sh config
```

2.3 バックグラウンドプロセスとしてBrokerを実行

Linuxがsystemdをサポートしない場合、代わりに次のステップがバックグラウンドプロセスとしてBrokerを実行します:

1. Brokerプロセスを実行:

```
sudo ./run_broker.sh
```



Broker設定画面を開く:

```
sudo ./run_brokerconfig.sh
```

古いバージョンの**broker.sh**スクリプトが**Broker (Linux版)** アーカイブ**broker.sh.tar.gz**で提供されています。このスクリプトはサービスとしてインストールできないシステムで**Broker**のプロセスを開始するのに使用されます。セクション4で説明されている全てのコマンドは“*install*”と“*uninstall*”以外同じです。

3. 既存のBrokerをアップグレードする

既存のBrokerをアップグレードするには:

1. OpenLMのダウンロードページから最新のBroker (Unix/Linux版) をダウンロードしてください。
2. 現行のBrokerインストールを削除してください。
- Systemdなら、次でBrokerをアンインストールしてください:

```
./broker.sh uninstall
```

- Systemdがなければ、次でBrokerプロセスを停止してください:

```
./broker.sh stop
```

3. ご都合の場所にアーカイブ (OpenLM_Broker_#.#.#.#.tar.gz)を解凍する。
4. 旧Brokerのインストールフォルダーから新しいフォルダーに**broker.xml**と**settings.sh**ファイルをコピーする (必要なら書き替えてください)。
5. Brokerサービスを新しいOpenLM_Broker_x.x.x.xフォルダーからインストール。
- Systemdなら、サービスをインストール:

```
./broker.sh install
```

- Systemdがないなら、プロセスを開始:



```
./broker.sh start
```

重要: OSにsystemdがないなら、Brokerアーカイブの中にある**broker.sh.tar.gz**の旧スクリプトで**broker.sh**を取り換える必要があります。

./broker.sh configを実行する事で、設定やライセンスサーバーが（LinuxにGUIがあれば）GUIで同じであるか検証すると良いでしょう。EasyAdminのライセンスサーバーウィンドウでもBroker監視のライセンスマネジャーが確認できます。

4. Broker.sh コマンド

コマンド名	説明
install	“systemctl enable”を使用してサービスとしてBrokerをインストール
uninstall	サービスとして開始する事で既存のBrokerのインスタンスを無効にする
start	OpenLM Brokerサービスを開始
stop	OpenLM Brokerサービスを停止
restart	OpenLM Broker サービスを再開
status	OpenLM Broker サービスのステータスを表示
config	GUIのBroker設定ツールを立ち上げる

コマンドフォーマット:

```
sudo ./broker.sh <コマンド>
```

5. detect.shでBrokerを設定



このスクリプトの機能はBroker設定ファイルにサポートするライセンスマネジャーのポートを検知して追加する機能です。

適切な操作のためには、rootでdetect.shを実行しなければいけません。

このスクリプトの結果にはいくつかの特徴があります:

- 設定ファイルが存在しない時にdetect.shを実行すると、マシンで開いていて検知されたライセンスマネジャーのポートを記載してデフォルトの設定ファイルが作成されます。
- 設定ファイルが既に有る場合detect.shを実行すると、2つのファイルを合併して、broker.xmlに不足したポート情報を追加します。オリジナルファイルのコピーが“broker.xml.backup”として作成されます。

コマンドフォーマット:

```
sudo ./detect.sh <ファイル名.xml> <オンプレミスOp
```

注意: 第2パラメータはオプションで、オンプレミスのOpenLM Serverに接続を設定する時のみ適用可能です。

例 :

このコマンドはaddonports.xml からメインのbroker.xml ファイルにポートを追加します。

```
sudo ./detect.sh addonports.xml
```

このコマンドはオンプレミスのOpenLM Serverへの接続 (10.0.0.12、デフォルトポート7016) と共に指定されたXMLファイルにポートを追加します。

```
sudo ./detect.sh broker.xml 10.0.0.12
```

5.1 detect.shを使用してOpenLMクラウド設定のインポート

OpenLMクラウドとBrokerの接続を設定したい場合:



- OpenLMクラウドにWEBサイトで登録すると最初にWelcomeメールがbroker.xmlファイルと共に送られてきます。
- Brokerが既に1つ以上のライセンスマネージャーで設定されている場合は、上書きを避けるためにこのbroker.xmlファイル名を変更してください（例： brokerSaaS.xml）
- Brokerをインストールした場所にファイルをコピーする。
- detect.shを実行:

```
sudo ./detect.sh brokerSaaS.xml
```

- Brokerサービスかプロセスを再開:

```
sudo ./broker.sh restart
```

5.2 代用設定

違うマシンから設定ファイルをインポートする事も可能です。GUIが無くBroker設定ツールが使用できない場合で特定のポートを設定する必要がある場合に便利です。

そのような場合、既にBrokerマシンで設定されたbroker.xmlファイルをコピーして、目的のマシンにdetect.shコマンドでインポートするだけで大丈夫です。broker.xmlが既に有る場合、コピーしたファイル名を必ず変更してください:

```
sudo ./detect.sh brokerAddon.xml
```

+81 (0)50 5893 6263

sales@openlm.com

